

“マエストロ小林研一郎 80th 祝祭演奏会 VOL.2”

チャイコフスキー交響曲全曲チクルス

人間味溢れるマエストロの魅力

文：石崎 浩（読売新聞編集委員）

昨年4月に80歳を迎え、ますます大活躍のマエストロ・小林研一郎さん。筆者は新聞紙上で半生記を連載したことがあり、その後も折に触れて言葉を交わす機会に恵まれている。魅力の一端を紹介したい。

まず特筆すべきなのは、これが80代とはとても信じられないパワフルな活動ぶりだ。コロナ禍の直前まで国内外で年100回近い演奏会を指揮し、2020年前半には数か月の空白を余儀なくされたものの、またペースが戻りつつある。大晦日には恒例のベートーヴェン全交響曲連続演奏会を一人ですべて指揮し、一瞬も弛緩することのない集中力で壮絶な演奏を繰り広げた。

数時間にわたる長丁場のリハーサルでも、立ち通しでタクトを振る。ふだんの静かな口調とは打って変わり、声が大きく、とてもよく通る。演奏を中断しなくても、振りながら指示する声が最後列の奏者まで明瞭に聞こえる。「オーケストラは演奏を止めると嫌がりますから」。リハーサルはよどみなく進んでいく。

とにかく奏者に礼儀正しい。練習では「ありがとうございます」「素晴らしいです」を連発する。「オーケストラは大変な才能の集団ですから」と話すのを何度も聞いた。本番でもうまく演奏した奏者に向かって、左手で目立たないようにOKサインを出していることがある。楽章と楽章の間で、指揮台から降りて胸に手を当て、オーケストラに向かって頭を下げているのもよく目にする。「ありがとうございます」と心の中で言っているのだろう。

演奏会でステージに向かう直前には、いつも舞台袖で亡きご両親に「きょうも守ってください」と語りかけているそうだ。マエストロは福島県いわき市小名浜で、高校の体育教師をしていた父と小学校教諭の母の間に生まれた。深い愛情を受けて育ち、34歳のとき第1回ブダペスト国際指揮者コンクールで優勝するまでは街の音楽教室でピアノやギターを教え、アマチュアの合唱団を指揮して何とか暮らしを立てていた苦労人なのだ。

マエストロの演奏会で、指揮棒の先端から10センチほどのところに、よく見ると、かすかな「継ぎ目」があることに気づいた方もいるかもしれない。この指揮棒は愛弟子の手作りで、握りのところには釣りの重りが埋め込まれている。「バランスがいい」と気に入り、ぶつけて折れてもテープを巻いて大切に使い続けてきた。こんなところにも人柄の一端が表れている。

だが、だからといってオーケストラは気を緩めるわけにいかない。自らの音楽には、とことん厳しく向き合う人なのだ。

ふだんのリハーサルであまり止めないと先ほど書いたが、それでも筆者はプロの在京オケで、管楽器の首席奏者が同じソロの吹き直しを何度も繰り返し求められたのを目にしている。演奏会の本番でも、ベルリオーズの「幻想交響曲」第1楽章の冒頭で納得できずに演奏を止め、客席に「もう一度やります」と言って最初からやり直したのを目撃した。本番でここまでやる指揮者を筆者はあまり知らない。

名門チェコ・フィルハーモニー管弦楽団が相手でも、スメタナの連作交響詩「我が祖国」の録音中にファゴット奏者と激論になり、楽員の代表らが宿まで謝りに来て翌日ようやく再開したエピソードが残る（その後はチェコ・フィルと「雨降って地固まる」の強い信頼関係で結ばれ、数々の名録音を残している）。音楽総監督を務めたハンガリー国立交響楽団（現ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団）とせっかくベートーヴェンの交響曲を全曲録音したのに、出来映えに満足できず、発売を見送りお蔵入りにしたこともある。レコード会社の人、大丈夫だったのだろうか……。

マエストロの指揮するチャイコフスキーには、しみじみとした温かさ、懐かしさと、炸裂する激しさが共存する。リハーサルでは弱音のところ「もっと聴こえない音」と指示し、強い緊張感を保ちながら音量を極限まで抑える。その一方、例えば交響曲第6番「悲愴」では、第1楽章のクライマックス、トロンボーンがフォルティッシモで咆哮するくだり（285小節以下）で「血を吐いてのたうち回るような音」を要求する。振幅の大きな音楽がオーケストラから引き出される。

クラシック音楽のオールドファンの目には、東京藝術大学指揮科での師匠で、情熱的な指揮で知られた山田一雄の面影が、かすかに重なって見えるかもしれない。芸風は異なるものの、朝比奈隆がレパートリーを厳選して繰り返し取り上げ、ついには高みに到達した一徹さも思い起こされる。小林マエストロは間違いなく、こうした名指揮者の系譜に連なる真の巨匠なのだ。

小細工など一切なしで、自らの信じる道をひたむきに突き進むマエストロ。得意中の得意である今回のチャイコフスキー・チクルスで、どんな名演を聴かせてくれるのだろう。